

みなさま、こんにちは。西村史代です。今年は特に厳しい寒さが続いていますが、お元気でお過ごしでしょうか。6年生では、いよいよ「SIO(ストップいじめ大内小)実行委員会」の活動が軌道に乗ろうとしています。私もこの活動にしっかり関わって、分析し、今後の研究に生かしていこうと思います。

今回は、2学期に行った6年生の授業の内容(1時間目)についてお知らせします。

■「自分発見!よさ発見!」1時間目

平成29年の10月から11月にかけて、6年生の学級活動の授業を2時間行いました。今回は、研究の視点2「自己肯定感・自己有用感」の育成をねらいとして行いました。自己肯定感とは、一般的に「自分は生きる価値がある、誰かに必要とされている」と、自らの価値や存在意義を肯定できる感情のことをいいます。また、自己有用感とは、一般的に「自分の属する集団の中で、自分がどれだけ大切な存在であるかということ」を自分自身で認識することだといわれています。

1時間目のねらいは、「自他の目を通して自分の長所を理解し、自己を肯定的に捉えること」としました。一般的に、自分の長所を自覚することはなかなか難しいため、自分と向き合う場面や他者から認められる場面を意図的に設定することが必要です。このような背景から、1時間目は、自己肯定感の育成を図ることとしました。

授業では、まず、自分の長所と短所を振り返りました。その後、班の友だちの長所を考え、互いに伝え合いました。最後に、改めて自分の長所が何かを考えました。自分で自分の長所を考える時にはなかなか書くことができなかった児童も、班の友だちから長所を伝えられた後には長所を書くことができていました。長所を互いに伝え合う場面では、教室全体が和やかな雰囲気になりました。児童が書いた振り返りシートの一部を紹介します。



- ・みんなから「おもしろい」と言われて、うれしかったです。自分では、「がまん強い」「おだやか」だとは思わなかったけど、みんなからそう思われていると知って、うれしかったです。
- ・自分では分からないことが分かって、「自分にもこんなところがあるのだ」と思いました。
- ・長所は、「明るい」「活発」なので、これからもこの二つを生かしてがんばりたいです。
- ・自分で長所を探すことがあまりできなかったので、友だちから教えてもらってうれしかったです。



長所に着目した1時間を経て、児童は、友だちから自分の長所を教えてもらって喜びを感じるとともに、自分の長所について理解を深めることができたことが窺えます。また、「自分の長所に自信をもち、これからも長所を伸ばしてがんばっていこう」という前向きな気持ちをもつことができた児童も見られました。長所を教えてもらった児童は、笑顔になり、とても嬉しそうでした。この「友だちに長所を伝えたことで、相手が喜んだ」という経験が、自己有用感を感じる場面になったと考えられます。

この授業でとても印象に残っているのは、友だちから自分の長所を教えてもらっている時の児童の姿です。照れくさそうに、でも、とても嬉しそうにメモを取っていました。そして、友だちの長所を教える児童も笑顔でした。予定していた時刻が来て、次の学習活動に進まなければならないのですが、「では、この活動を終わります。」と言うのがためらわれる程の和やかな光景でした。やはり、「人間は、誰かに認めてほしいし、認められたら嬉しいのだな」と感じました。今後、特に児童と接する時は、よさを見だし、言葉で伝えるように心掛けていきたいと思っています。次回は、2学期に行った6年生の授業の内容(2時間目)についてお知らせします。